令和６年度 防火ポスターコンクール

【　逗子市消防長賞　】

池子小学校６年生　　武藏野（むさしの）　百叶（ももか）　さん

逗　子　消　防　の　沿　革

昭和25年７月１日　横須賀市からの分離、独立に伴い、逗子町消防本部及び逗子町消防署を発足し、初代消防長に小平喜市氏が就任した。

それまで配置されていた消防自動車２台とこれに伴う積載器具等をそのまま引き継ぎ、消防業務を開始した。

１　消防本部・消防署所在地

三浦郡逗子町逗子975番地

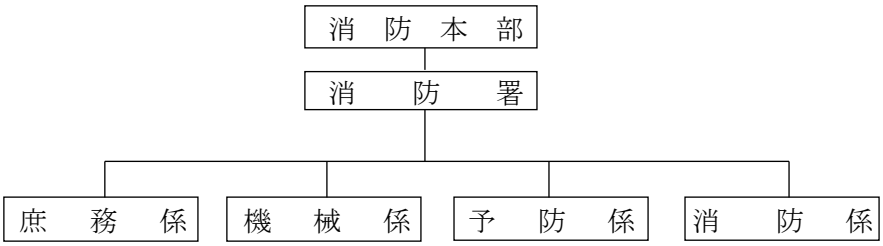
（現在の住居表示：逗子市逗子５丁目４番33号）

２　規　模

敷地面積　　490.5平方メートル

建築面積　　189.0平方メートル　　延面積　　255.0平方メートル

３　組　織



４　人　員

消防職員25名

同時に逗子町消防団（消防団員225名）を発足し、初代消防団長に井上肇氏が就任した。

９月15日　消防職員の定数を改正し、26名とした。

◎　ＮＨＫ、テレビ定期実験放送開始　◎　金閣寺焼失　◎　1,000円札発行

昭和26年11月24日　第１分団に、消防ポンプ自動車（ニッサン）を、第２分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を配置した。

12月25日　消防署に水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽容量1,500リットル）を増強配置した。

◎　ＮＨＫ「紅白歌合戦」始まる　◎　松阪大火

昭和27年６月11日　第６分団及び第８分団に、三輪消防ポンプ自動車（ニッサン）をそれぞれ配置した。

７月１日　消防署の消防ポンプ自動車（トヨタ）の艤装換えを行い、ホースカー２台を積載し

て機動力を強化した。

◎　国鉄東逗子駅開設　◎　十勝沖地震

◎　京急品川・逗子海岸間に直通海水浴特急の運転を開始

昭和28年２月20日　第７分団に、三輪消防ポンプ自動車（トヨタ）を配置した。

３月24日　消防団員の定数を改正し、190名とした。

４月１日　初代消防団長井上肇氏の退任に伴い、第二代消防団長に矢嶋濱吉氏が就任した。

５月５日　消防署の消防ポンプ自動車（トヨタ）に、小型動力ポンプ（トーハツ、C-2級）を積載し、親子ポンプとして運用した。

６月10日　神奈川県下10市町において、消防相互応援協定を締結した。

７月１日　乗用車（ナッシュ）をもって、夏季期間中における避暑客等を主体に救急業務を開始した。

◎　ＮＨＫ、東京地区で本放送開始　◎　第１回全国統一秋の火災予防運動実施

昭和29年４月15日　市制施行に伴い、名称を逗子市消防本部、逗子市消防署及び逗子市消防団に改めた。

６月１日　第５分団に、三輪消防ポンプ自動車（トヨタ）を配置した。

◎　50銭以下の小銭廃止

昭和30年３月７日　災害の防御と消防力の強化により、消防庁長官から竿頭綬を授与された。

◎　アルミ１円硬貨の発行　◎　第１回文化財防火デー実施

昭和31年３月30日　消防本部に乗用車（プリムス）を配置した。

６月15日　第４分団に、小型動力ポンプ（トーハツ）を配置した。

12月17日　消防署に、放水銃を搭載した水槽付消防ポンプ自動車（ニッサン、A-2級、水槽容量2,000リットル）を配置した。

◎　中央気象台、気象庁として発足　◎　日本、国連加盟

昭和32年３月15日　逗子市火災予防条例を制定した。（昭和32年条例第１号）

９月29日　第３分団に、消防ポンプ自動車（トヨタ、A-2級）を配置した。

◎　5,000円札、100円硬貨の発行　◎　ソ連、人工衛星打ち上げに成功

昭和33年１月31日　初代消防長小平喜市氏、病のため逝去された。

２月３日　眞下健次氏が消防長心得に就任した。

３月30日　消防本部に乗用車（デソート）を配置した。

３月31日　消防職員の定数を改正し、28名とした。

７月１日　眞下健次氏が第二代消防長に就任した。

12月８日　消防団員の定数を改正し、139名とした。

◎　東京タワー完成　◎　国立競技場完成　◎　10,000円札の発行

昭和34年２月19日　消防署と米陸軍池子弾薬庫基地消防隊間に直通電話を開設し、運用を開始した。

10月12日　消防署に、消防用中短波陸上無線局を開局し、移動局を消防ポンプ自動車２台（逗子消防１号、逗子消防２号）に装備し、運用を開始した。

◎　メートル法実施　◎　伊勢湾台風

昭和35年４月１日　第二代消防団長矢嶋濱吉氏の退任に伴い､第三代消防団長に片山文雄氏が就任した。

７月２日　消防署の水槽付消防ポンプ自動車（ニッサン、A-2級）の大吸管を軽量吸管に改造し、配置した。

７月25日　第９分団に、小型動力ポンプ付三輪消防自動車（B-2級）を配置した。これにより消防団に配置されていた手引ガソリンポンプは、全て廃止した。

11月10日　消防本部・消防署庁舎を新築移転し、消防業務を開始した。

１　消防本部・消防署所在地

逗子市桜山876番地

（現在の住居表示：逗子市桜山２丁目３番31号）

２　規　模

敷地面積　1,295.9平方メートル

建築面積　276.8平方メートル　延面積　663.6平方メートル

（鉄筋コンクリート造２階建、一部３階建）

◎　自治省消防庁の発足　◎　防火管理者制度の創設　◎　第１回防災の日実施

昭和36年３月14日　消防職員の定数を改正し、33名とした。

４月22日　第４分団に、小型動力ポンプ付三輪消防自動車（B-3級）を配置した。

４月23日　消防署に、電話交換機の自動化に伴う火災、救急専用電話として、119番の受信用電話機が設置された。

６月28日　集中豪雨による未曾有の水害により、市街地の５分の１が浸水し、災害救助法が適用された。

◎　消防力の基準制定　◎　ソ連、人間衛星船ヴォストーク１号打ち上げ成功

◎　災害対策基本法の制定　◎　東ドイツ、東西ベルリン境界に壁を構築

昭和37年２月19日　消防職員の定数を改正し、35名とした。

９月１日　逗子市火災予防条例を全部改正した。（昭和37年条例第14号）

10月24日　消防署に、大型粉末消火器６本を積載した消防ポンプ自動車（ニッサン　ジュニア、A-2級）を増強配置した。

◎　消防吏員の階級準則の制定　◎　十勝岳爆発　◎　東京都の人口1,000万人を突破

昭和38年３月８日　消防署に、日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（トヨタ　ランドクルーザー、A-2級）が寄贈され、増強配置した。

７月15日　逗子市消防救急隊設置規則の制定（昭和38年規則第11号）により、消防署に救急自動車（ニッサン　キャブオール、２ベッド式）を配置し、救急業務を開始した。

◎　黒部川第４発電所完成　◎　日米間初の宇宙中継

昭和39年３月24日　消防職員の定数を改正し、37名とした。

４月15日　第三代消防団長片山文雄氏の退任に伴い、第四代消防団長に堀尾充氏が就任した。

◎　第18回オリンピック、東京で開催　◎　国鉄、東海道新幹線開業

◎　湘南有料道路、鎌倉・逗子間開通　◎　消防水利の基準の制定

昭和40年10月25日　消防署に、小型動力ポンプ付積載車（三菱　ミニカ、B-3級）を増強配置した。

◎　消防訓練礼式の基準の制定　◎　初の商業原子力発電始まる

昭和41年４月４日　消防救助隊員養成のため、８名の消防隊員を横浜市消防局へ派遣し、同年５月に救助隊を発足させた。

◎　三沢市大火　◎　全日空機東京湾に墜落　◎　ビートルズ東京公演

昭和42年９月13日　消防署に、消防用超短波携帯無線機４基を配置した。

◎　消防吏員服制準則制定　◎　公害対策基本法公布　◎　ヨーロッパ共同体(EC)発足

◎　東南アジア諸国連合(ASEAN)結成

昭和43年３月21日　消防職員の定数を改正し、50名とした。

５月17日　小坪分署開庁に伴い、消防士長以下12名、消防ポンプ自動車１台を配置し、消防業務を開始した。

１　小坪分署所在地

逗子市新宿４丁目1,576番地の４

２　規　模

敷地面積　　339.7平方メートル

建築面積　　130.4平方メートル　　延面積　　187.1平方メートル

（鉄筋コンクリート及びブロック造２階建）

６月５日　消防署と鎌倉消防署間に直通電話を開設し、運用を開始した。

◎　十勝沖地震　◎　郵便番号制度を実施　◎　小笠原諸島、日本復帰

◎　国鉄逗子駅（鉄筋３階建）改築

昭和44年１月27日　消防署に、消防用超短波無線基地局を設置し、運用を開始した。

３月25日　消防署に、神奈川県防災総合無線局を設置し、運用を開始した。

４月１日　消防副士長制度を施行した。

９月20日　消防署に、救急自動車（トヨタ　FS55V）を増強配置した。

◎　磐梯熱海温泉磐光ホテル火災　◎　東名高速道路全面開通

◎　米宇宙船アポロ11号、月面着陸

昭和45年２月28日　消防長の階級を消防監に改正し、３月１日から施行した。

◎　逗葉新道開通　◎　日本万国博覧会の開催　◎　日航機よど号のハイジャック

昭和46年８月17日　小坪分署に、消防ポンプ自動車（ニッサン　FHN60、A-2級）を増強配置した。

10月15日　自治省消防庁通達（昭和45年６月10日付）の「救急自動車に備えるサイレンの音色の変更について」により、ピーポーサイレンを全ての救急自動車に装備した。

◎　沖縄返還協定調印　◎　逗子市危険物安全協会設立

昭和47年１月22日　浜田稔博士を招き、当市地震対策に基づく避難地の現地調査を行った。（当市防災会議の専門委員として１年間委嘱）

３月22日　消防職員の定数を改正し、54名とした。

７月19日　消防本部に、災害現場指揮のため、指令車（ニッサン　セドリック）を増強配置した。

９月25日　消防職員の定数を改正し、60名とした。

９月27日　消防署に、日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（ニッサン　FH60、A-2級）が寄贈され、増強配置した。

11月19日　消防署に、空気呼吸器の充填用として圧縮空気製造施設を設置した。

◎　第１回全国消防救助技術大会の開催　◎　第11回冬季オリンピック、札幌で開催

◎　千日デパートビル火災　◎　上野公園、パンダ初公開

昭和48年３月９日　消防署に、花崎産業株式会社から救急自動車（トヨタ　RH-11G、キャブオーバー型）が寄贈され、増強配置した。

10月１日　消防署に、都市化の進展や中高層建築物の急激な増加に伴い、中高層建築物災害に対処するため、はしご付消防ポンプ自動車（三菱、24メートル級）を増強配置した。

12月11日　消防職員の定数を改正し、63名とした。

◎　熊本市大洋デパート火災　◎　石油ショック　◎　関門橋の開通

昭和49年１月１日　消防本部事務機構を３係（庶務・企画・予防）に改めた。

４月１日　小坪分署受持区域の救急事故の増加に伴い、消防署から小坪分署に救急自動車（トヨタ　RH11G）を配置替えし、救急業務を開始した。

◎　伊豆半島沖地震

昭和50年１月15日　消防署に、消防・救急一斉指令装置（OKI電気　PD1007C型）を設置し、運用を開始した。

◎　沖縄国際海洋博覧会の開催　◎　山陽新幹線、岡山・博多間開業

◎　日本女子登山隊、女性初のエベレスト登頂に成功

昭和51年３月19日　消防署に、日本自動車工業会から救急自動車（トヨタ　H-RH19V）が寄贈され、増強配置した。

10月29日　消防本部に、菊池地所株式会社及び小坪マリーナーから広報査察車（ニッサン）が寄贈され、増強配置した。

◎　酒田市火災　◎　宅急便が登場

昭和53年１月１日　第二代消防長眞下健次氏の退任に伴い、第三代消防長に山口孫吉氏が就任した。

消防本部の機構改革を実施し、消防総務課及び消防予防課の２課を置き、消防署に課長級の当直司令制度を導入した。

消防署に、救急業務の円滑を図るため救急医療システムを導入し、運用を開始した。

１月14日　市内の谷戸地を重点に、街頭消火器（粉末）163本を設置した。

３月30日　消防職員の定数を改正し、71名とした。

12月22日　消防署に、消防ポンプ自動車（三菱　FK115D、A-2級）を増強配置した。

◎　伊豆大島近海地震　◎　宮城県沖地震　◎　新東京国際空港が開港

昭和54年３月25日　消防署と東京ガス藤沢営業所間に直通電話を開設し、運用を開始した。

４月１日　分署長（課長級）制度を施行した。

北分署開庁に伴い、分署長以下14名、消防ポンプ自動車２台、救急自動車１台を配置し、消防業務を開始した。

１　北分署所在地

逗子市池子１丁目１番１号

２　規　模

敷地面積　　931.3平方メートル

建築面積　　258.4平方メートル　　延面積　　312.4平方メートル

（鉄筋コンクリート造、一部２階建）

11月１日　毎月１日を「防災の足の日」と定め、全職員の徒歩出勤を実施した。

12月８日　市民を対象とした、火災・地震等災害に対する意識向上を図るため、第１回逗子市消防総合展を実施した。

◎　東名高速日本坂トンネル内車両火災　◎　地震防災対策強化地域の指定

昭和55年12月１日　逗子消防30年を記念し、「逗子消防三十年のあゆみ」を発刊した。

◎　静岡駅前ゴールデン街ガス爆発火災　◎　栃木県川治プリンスホテル火災

昭和56年３月26日　消防職員の定数を改正し、76名とした。

６月11日　消防署と東京電力横須賀営業所間に直通電話を開設し、運用を開始した。

◎　宮城県沖地震　◎　「適」マーク制度の全国一斉実施（旅館・ホテル）

昭和57年４月７日　消防署と日本道路公団川崎交通管制センター間に、非常用及び業務用直通電話を開設し、運用を開始した。

12月８日　消防署に、救助工作車（三菱　K-FK116D）を増強配置した。

◎　第１回救急の日実施　◎　ホテルニュージャパン火災　◎　日航機羽田沖に墜落

◎　横浜横須賀道路逗子インターチェンジ完成、開通　◎　500円硬貨発行

昭和58年３月31日　消防署に、日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車（三菱　K-FK116F）が寄贈され、北分署に増強配置した。

４月１日　第四代消防団長堀尾充氏の退任に伴い、第五代消防団長に川原政雄氏が就任した。

◎　「適」マーク制度の全国一斉実施（劇場・百貨店）　◎　日本海中部地震

◎　東京ディズニーランド開園

昭和61年４月１日　消防本部に、事務処理の効率化及び簡素化を図るため、パーソナルコンピュータを導入し、運用を開始した。

消防署に、神奈川県防災行政無線ファクシミリを導入し、運用を開始した。

７月１日　小坪分署・第７分団庁舎を、新築（併設）移転した。

１　小坪分署・第７分団所在地

逗子市小坪５丁目449番地

（現在の住居表示：逗子市小坪５丁目21番４号）

２　規　模

敷地面積　　769.9平方メートル

建築面積　413.0平方メートル　延面積　388.1平方メートル

（鉄筋コンクリート造、平屋建）

7月24日　消防本部に、財団法人日本消防協会から指令広報車（ニッサン）が寄贈され、配置した。

◎　静岡県東伊豆町熱川温泉大東館火災　◎　伊豆大島三原山大噴火

昭和62年4月1日　第五代消防団長川原政雄氏の退任に伴い、第六代消防団長に平井三郎氏が就任した。

6月27日　消防署に、逗子市商工会から小型貨物自動車（トヨタ　J-RH34V）が寄贈され、増強配置した。

◎　特別養護老人ホーム松寿園火災　◎　第1回119番の日　◎　旧国鉄、分割民営化

昭和63年3月4日　消防署に、衛星通信を利用した119番回線を開設し、運用を開始した。

3月31日　消防職員の定数を改正し、78名とした。

4月1日　第三代消防長山口孫吉氏の退任に伴い、第四代消防長に上村辰蔵氏が就任した。

◎　瀬戸大橋開通　◎　青函トンネル開通　◎　東京ドームオープン

平成元年2月18日　消防職員の定数を改正し、80名とした。

3月6日　災害の防御と消防力の強化により、消防庁長官から消防本部及び消防団に対し表彰旗が授与された。

4月1日　第四代消防長上村辰蔵氏の退任に伴い、第五代消防長に菊池和文氏が就任した。

◎　「平成」と改元　◎　東西ドイツ、ベルリンの壁崩壊

◎　消費税3パーセントがスタート

平成2年7月1日　消防本部・消防署庁舎建替えに伴い、逗子市民体育館脇の仮設庁舎へ移転し、業務を開始した。

◎　大阪、国際花と緑の博覧会開幕

平成3年3月26日　消防職員の定数を改正し、82名とした。

◎　救急救命士法の制定　◎　雲仙普賢岳で大火砕流発生　◎　新東京都庁落成

平成4年3月19日　消防職員の定数を改正し、83名とした。

4月1日　消防本部・消防署庁舎が完成し、業務を開始した。

1　消防本部・消防署所在地

逗子市桜山2丁目3番31号

2　規　模

敷地面積　1,300.3平方メートル

建築面積　804.1平方メートル　延面積　2,522.9平方メートル

（鉄骨鉄筋コンクリート造、地下１階、地上３階建）

消防署に、消防緊急情報システムⅡ型（OKI電気　PD9000型）を導入、消防用超短波無線基地局（救急波）を設置し、運用を開始した。

７月29日　消防本部に、小型連絡車（スズキ　V-CL22V）を増強配置した。

◎　国家公務員週休２日制実施　◎　山形新幹線、東京、山形間開業

平成５年１月30日　消防署に、防災資機材運搬車（トヨタ　U-BU60改）を配置した。

２月25日　消防署に、高規格救急自動車（トヨタ　T-RZH133改、２Ｂ型）を配置した。

３月22日　消防職員の定数を改正し、88名とした。

10月13日　消防署に、はしご付消防自動車（日野　U-PR2FNA改、30ｍ級）を配置した。

12月１日　救急業務の高度化を図るため、救急救命士と高規格救急車による運用を開始した。

◎　東京湾レインボーブリッジ開通　◎　釧路沖地震　◎　北海道南西沖地震

◎　東海道はるか沖地震　◎　Ｊリーグ開幕

平成６年４月１日　第五代消防長菊池和文氏の退任に伴い、第六代消防長に佐々木顯氏が就任した。

◎　北海道東方沖地震　◎　三陸はるか沖地震　◎　製造物責任(PL)法制定

◎　関西国際空港開港　◎　松本サリン事件

平成７年１月18日　阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣した。

７月27日　消防本部に、財団法人日本消防協会から指令広報車（ニッサン　R-VFY10改）が寄贈され、配置した。

８月21日　消防署に、社団法人日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車（ニッサン　U-CM87EE改、A-1級）が寄贈され、北分署に配置した。

11月25日　小坪分署に、高規格救急自動車（トヨタ　GB-UZH132改、２Ｂ型）を配置した。

◎　阪神・淡路大震災　◎　緊急消防援助隊の創設　◎　地下鉄サリン事件

平成８年４月１日　第六代消防長佐々木顯氏の退任に伴い、第七代消防長に佐原正夫氏が就任した。

消防署の組織改正を行い、警備第一課及び警備第二課を置き、課制を導入した。

10月１日　逗子市消防本部消防職員委員会を発足した。

◎　病原性大腸菌O-157集団食中毒各地で発生　◎　北海道豊浜トンネル岩盤崩落事故

平成９年４月１日　第七代消防長佐原正夫氏の退任に伴い、第八代消防長に金野武司氏が就任した。

◎　北陸新幹線、東京、長野間開通　◎　香港中国に返還

◎　消費税５パーセントに引き上げ

平成10年２月４日　消防署に、Ⅱ型救助工作車（ニッサン　KC-LK211EN改）を配置した。

４月１日　第八代消防長金野武司氏の退任に伴い、第九代消防長に山田清氏が就任した。

◎　郵便番号７桁制実施　◎　和歌山集団毒物中毒事件

平成11年３月31日　消防署に、消防団緊急伝達システムを導入し、第４分団に子局を設置して運用を開始した。

11月９日　北分署に、高規格救急自動車（トヨタ　GE-VCH32S、２Ｂ型）を配置した。

◎　神奈川県山北町玄倉川水難事故　◎　茨城県ウラン加工施設臨界事故

◎　初の脳死臓器移植実施

平成13年２月28日　第９分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

◎　歌舞伎町ビル火災　◎　米国、同時多発テロ事件

平成14年４月１日　第九代消防長山田清氏の退任に伴い、第十代消防長に盛田一郎氏が就任した。

◎　日韓共催サッカーW杯　◎　ノーベル賞日本人ダブル受賞

平成15年２月１日　ホームページを開設した。

４月１日　第六代消防団長平井三郎氏の退任に伴い、第七代消防団長に安田昭治氏が就任した。

◎　韓国大邱市地下鉄火災　◎　ごみ固形化燃料(RDF)発電所火災

◎　十勝沖地震で製油所タンク火災　◎　宮城県北部地震

平成16年１月20日　第５分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

３月10日　消防署に、災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（三菱　KK-FK61HGY改）を配置した。

11月１日　第８分団庁舎の新築移転に伴い、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

◎　新潟県中越地震　◎　スマトラ沖大地震・インド洋大津波

平成17年４月１日　第七代消防団長安田昭治氏の退任に伴い、第八代消防団長に清水計宏氏が就任した。

◎　兵庫県尼崎市列車脱線事故　◎　ハリケーン“カトリーナ”アメリカ南東部襲撃

平成18年３月６日　第１分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

４月１日　第十代消防長盛田一郎氏の退任に伴い、第十一代消防長に清水幸一氏が就任した。

◎　長崎県大村市認知症高齢者グループホーム火災

◎　北朝鮮弾道ミサイル発射

平成19年４月１日　逗子市消防吏員階級等に関する規則を改正し、消防長の階級を消防司令長とした。

◎　能登半島地震　◎　新潟県中越沖地震　◎　郵政民営化

平成20年４月１日　第八代消防団長清水計宏氏の退任に伴い、第九代消防団長に柳下征守氏が就任した。

◎　中国四川大地震　◎　岩手・宮城内陸地震

◎　大阪市個室ビデオ店火災　◎　綾瀬市知的障害者施設火災

平成21年３月16日　第３分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

４月１日　第十一代消防長清水幸一氏の退任に伴い、第十二代消防長に吉田純一氏が就任した。

◎　新型インフルエンザ流行　◎　裁判員制度開始

◎　韓国射撃場火災　◎　群馬県渋川市老人ホーム火災

平成22年３月12日　第６分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

４月１日　第十二代消防長吉田純一氏の退任に伴い、第十三代消防長に福地昭三氏が就任した。

第九代消防団長柳下征守氏の退任に伴い、第十代消防団長に髙﨑昭氏が就任した。

12月13日　第７分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

◎　家畜伝染病口蹄疫流行（宮崎県）　◎　小惑星探査機「はやぶさ」帰還

◎　ハイチ地震

平成23年３月11日　東日本大震災の被災地（宮城県仙台市）に、緊急消防援助隊神奈川県隊として消火部隊を派遣した。

・第１次～第３次派遣隊、３月11日から３月20日まで10日間、延べ15名

12月26日　第２分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

◎　東日本大震災　◎　東日本大震災の津波による放射能事故

◎　地上アナログテレビ放送終了

平成24年５月29日　消防団連絡体制強化のため、各消防団車両等にデジタル簡易無線機を整備した。

◎　広島県福山市ホテル「プリンス」火災　◎　東京スカイツリー開業

◎　レスリング吉田沙保里国民栄誉賞受賞　◎　笹子トンネル天井板落下事故

平成25年12月３日　携帯・IP電話発信位置情報通知システムを設置して運用を開始した。

◎　富士山世界文化遺産登録　◎　台風第26号伊豆大島土石流

◎　長崎県グループホーム火災　◎　京都府福知山花火大会火災

◎　福岡県福岡市整形外科火災

平成26年１月20日　財団法人日本消防協会から、防災活動車（ダイハツ　EBD-S331V）が寄贈され、本団に配置した。

４月１日　第十代消防団長髙﨑昭氏の退任に伴い、第十一代消防団長に平野佳一氏が就任した。

10月５日　第６分団庁舎を新築し、運用を開始した。

◎　消費税８パーセントに引き上げ　◎　表示制度全国一斉実施（旅館・ホテル）

◎　広島土砂災害　◎　御嶽山噴火

平成27年３月23日　北分署に圧縮空気泡消火装置（CAFS）付消防ポンプ自動車（日野TKG－XZU640M）を配置した。

◎　関東・東北豪雨　鬼怒川決壊　◎　マイナンバー社会保障・税番号制度開始

◎　池子米軍家族住宅地区内約40ヘクタール共同使用（池子の森自然公園）

◎　北陸新幹線（長野～金沢）開業

平成28年３月７日　消防救急デジタル無線を配備し、運用を開始した。

４月１日　第十三代消防長福地昭三氏の退任に伴い、第十四代消防長に金井忠氏が就任した。

７月１日　第十四代消防長金井忠氏の退任に伴い、第十五代消防長に草柳敦氏が就任した。

10月１日　消防団本団に本市初の女性消防団員が誕生した。

12月１日　北分署に女性仮眠室等を増設し、女性消防職員の勤務体制を整備した。

◎　熊本地震　◎　北海道新幹線開業　◎　小坪海岸トンネル付近崩落事故

◎　新潟県糸魚川市大規模火災

平成29年３月24日　逗子市再生可能エネルギー等導入事業により、消防本部庁舎に太陽光発電（12kW）及び蓄電池（15kWh）設備を整備した。

４月１日　北分署の配置人員を増強し、消防隊及び救急隊を専従隊として運用を開始した。

11月１日　総務省消防庁から救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車が寄贈され、第９分団に配置した。

12月18日　株式会社誠行社から小型無人航空機（消防ドローン）が寄贈され、運用を開始した。

◎　九州北部豪雨　◎　さいたま市特殊浴場火災

◎　ヒアリ国内初確認　◎　北朝鮮弾道ミサイル発射Ｊアラートによる情報伝達実施

平成30年３月１日　特定非営利活動法人湘南海上安全協会と、災害時における救助救援等の協力に関する覚書を締結した。

４月１日　消防・救急訓練指導の充実強化を図るため、消防総務課企画係の係名を警防救急係に変更した。

◎　西日本豪雨　◎　北海道胆振東部地震

◎　豊洲市場開場　◎　埼玉県熊谷市観測史上最高気温更新

平成31年３月24日　第２分団庁舎を新築し、運用を開始した。

４月１日　公益社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院と、ドクターカーの運用に関する協定書を締結した。

消防団の組織改正を行い、本団を団長１名及び副団長３名体制とした。

◎　「令和」と改元　　◎　消費税10パーセントに引き上げ

◎　首里城火災　　◎　京都アニメーション火災

令和２年４月１日　第十五代消防長草柳敦氏の退任に伴い、第十六代消防長に林行雄氏が就任した。

９月１日　消防署に、インターネット機能を利用した119番通報装置「NET119緊急通報システム」を導入し、運用を開始した。

11月27日　逗子市と民間６機関における水難救助の協力に関する協定を締結した。

◎　東京オリンピック・パラリンピック競技大会延期　◎　令和２年７月豪雨

◎　新型コロナウイルス流行

令和３年３月１日　消防本部・消防団発足70周年を記念し、「逗子消防70年のあゆみ」を発刊した。

３月24日　株式会社葉山国際カンツリー倶楽部からゴルフカーが寄贈され、消防職員が消防車仕様への艤装を行い、ミニ消防車「ずしこども１」が完成した。

４月１日　第十六代消防長林行雄氏の退任に伴い、第十七代消防長に行谷英雄氏が就任した。

７月６日　静岡県熱海市土石流災害の被災地に、緊急消防援助隊神奈川県隊として消火部隊及び後方支援部隊を派遣した。

・第２次～第４次派遣隊、７月６日から７月12日まで７日間、延べ20名

７月15日　東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催のため、消防特別警戒警備を実施した。

◎　横浜横須賀道路逗子インターチェンジ法面崩落　◎　静岡県熱海市土石流災害

◎　大阪市北区ビル火災

令和４年７月１日　逗子海岸営業協同組合と水難救助の協力に関する協定を締結（海水浴場開設期間）

８月24日　逗子市消防本部YouTube公式チャンネルを開設した。

11月22日　水難救助用水上オートバイ（ヤマハMJ－VX Cruiser HO）の運用を開始した。

◎　韓国雑踏事故　　◎　安倍元総理銃撃事件　　◎　北海道知床遊覧船沈没事故

令和５年３月23日　消防職員の定数を改正し、103名とした。

４月１日　逗子市消防吏員階級等に関する規則を改正し、消防長の階級を消防監とした。

令和５年９月１日　株式会社誠行社から小型無人航空機（消防ドローン）が寄贈され、運用を開始した。

◎　トルコ・シリア地震　　◎　新型コロナウイルス５類感染症へ移行

令和６年１月９日　１月１日に発災した能登半島地震の被災地に、緊急消防援助隊神奈川県隊として消火部隊及び後方支援部隊を派遣した。

・第１次～第５次派遣隊、１月９日から１月26日まで18日間、延べ30名

３月19日　高機能消防指令システム整備事業（全部更新）が完了し、運用を開始した。

４月１日　第十一代消防団長平野佳一氏の退任に伴い、第十二代消防団長に矢島明が就任した。

６月13日　予備救急自動車の運用を開始した。

10月２日　逗子市消防本部ソーシャルメディア（X）を開設した。

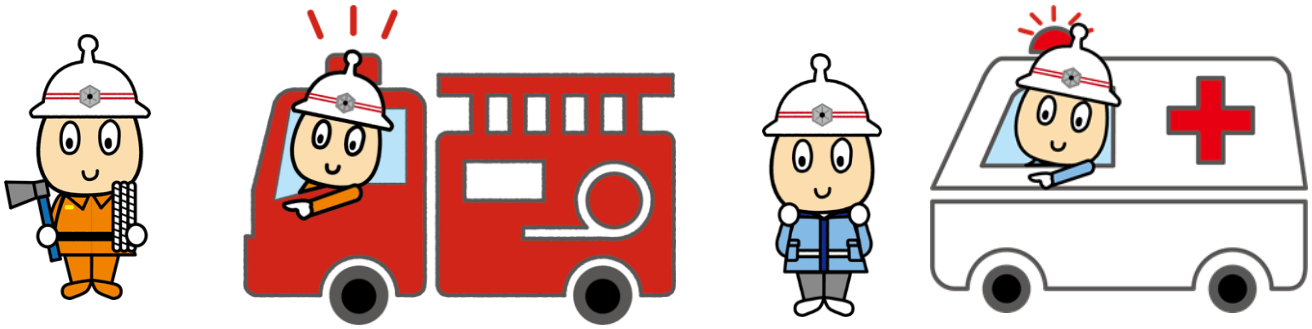
◎　令和６年能登半島地震　　◎　新紙幣発行　　◎　南海トラフ地震臨時情報を初発表

令和７年３月３日　２月26日に発生した岩手県大船渡市の林野火災の被災地に、緊急消防援助隊神奈川県隊として消火部隊及び後方支援隊を派遣した。

・第１次～第３次派遣隊、３月３日から３月13日まで11日間、延べ21名

４月１日　第十七代消防長行谷英雄氏の退任に伴い、第十八代消防長に熊坂篤範が就任した。

（注）◎印は、当該年の主な出来事



地　域　の　概　要

逗子市は、東経139度35分01秒、北緯35度17分32秒に位置し、東西6.96キロメートル、南北4.46キロメートル、周囲21.20キロメートル、面積約17.28平方キロメートルで、神奈川県の南東、三浦半島の頸部にあたり、東は横須賀市、北は横浜市、北西は鎌倉市、南は葉山町にそれぞれ境を接し、西は相模湾に臨んでいます。

地質は、第３紀層と第４紀層の洪積層とが輻輳した三浦層群という特殊な地質となっていて、市の南東から北北西にかけては、神武寺山を主峰として丘陵性の山に三方を囲まれ、披露山及び大崎は海蝕作用で風致に富む岩礁を形成し、中央部は田越川の地溝地帯として海岸線4.16キロメートルの逗子湾に臨んでいます。

河川水系は、本市のほぼ中央部を横断する田越川水系が主流をなし、池子川が桜山広地で、久木川水系は河口付近でそれぞれ合流し、西部を横断する小坪水系とともに相模湾へ注いでいます。

太陽が生まれたハーフマイルビーチとして有名なまちに１本部１署２分署１本団９分団を配置し、高齢化、国際化及び高度多様化などの時代潮流に対応するとともに、次世代に「青い海とみどり豊かな平和都市」を継承し続けるため、消防・救急体制の整備充実に努めています。

消　防　庁　舎　概　要

消防本部・消防署

所　在　地　　逗子市桜山２丁目３番31号
建 築 構 造　　鉄骨鉄筋コンクリート造、地下１階、地上３階建
敷 地 面 積　　1,300.3 平方メートル
建 築 面 積　　804.1 平方メートル
建築延面積　　2,522.9 平方メートル
建 築 年 月　　平成４年３月

小　坪　分　署

所　在　地　　逗子市小坪５丁目21番４号
建 築 構 造　　鉄筋コンクリート造、平屋建
敷 地 面 積　　1,182.8 平方メートル
建 築 面 積　　413.0 平方メートル
建築延面積　　388.1 平方メートル
建 築 年 月　　昭和61年６月

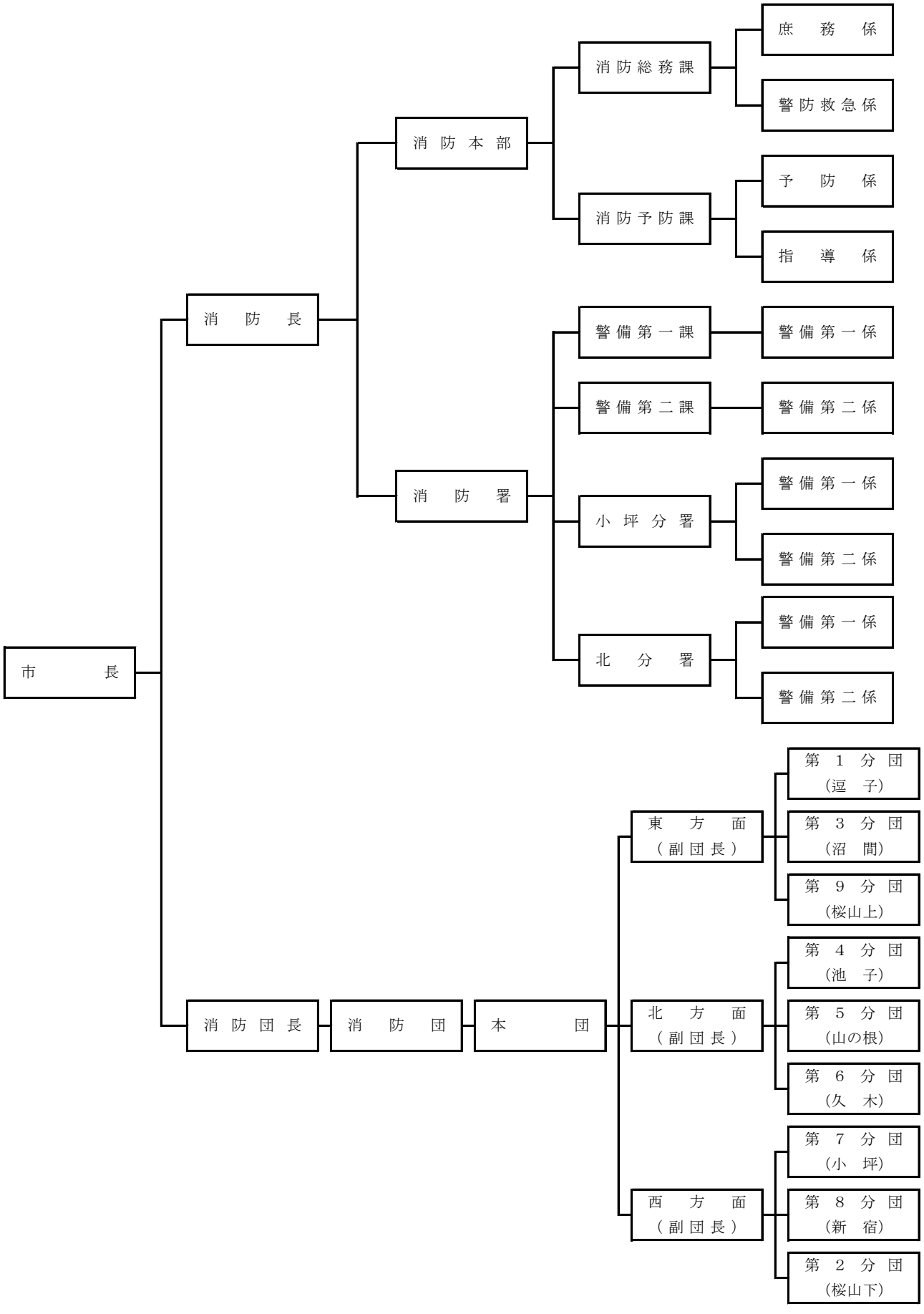
北　　分　　署

所　在　地　　逗子市池子１丁目１番１号
建 築 構 造　　鉄筋コンクリート造、一部２階建
敷 地 面 積　　931.3 平方メートル
建 築 面 積　　258.4 平方メートル
建築延面積　　312.4 平方メートル
建 築 年 月　　昭和54年３月

N
池子
池子住宅地区及び海軍補助施設
久木
久木(八)
久木(九)
久木(七)
久木(六)
久木(五)
久木(四)
久木(三)
久木(二)
久木(一)
池子(四)
池子(三)
池子(二)
池子(一)
神武寺
第４分団詰所
第６分団詰所
第５分団詰所
北分署
山の根(三)
山の根(二)
山の根(一)
沼間(二)
沼間(四)
東逗子
第３分団詰所
沼間(六)
逗子
逗子(二)
逗子(一)
逗子(五)
逗子(三)
逗子(四)
逗子(七)
桜山(一)
桜山(三)
桜山(四)
桜山(二)
第９分団詰所
新逗子
消防本部・消防署
第１分団詰所
沼間(一)
沼間(三)
桜山(五)
逗子(六)
第８分団詰所
新宿(二)
桜山(六)
沼間(五)
新宿(一)
第２分団詰所
桜山(七)
桜山(八)
桜山(九)
小坪(七)
小坪(一)
小坪(六)
小坪(二)
小坪(五)
小坪(三)
小坪(四)
小坪分署
第７分団詰所
新宿(四)
新宿(三)
新宿(五)
桜山
二子山(下)
二子山(上)
凡　例
消防本部
消防署
分署
消防団詰所

逗子市消防分布図

逗 子 市 消 防 組 織 図


市　長
消　防　長
消　防　本　部
消 防 総 務 課
庶　務　係
警 防 救 急 係
消 防 予 防 課
予　防　係
指　導　係
消　防　署
警 備 第 一 課
警 備 第 一 係
警 備 第 二 課
警 備 第 二 係
小 坪 分 署
警 備 第 一 係
警 備 第 二 係
北　分　署
警 備 第 一 係
警 備 第 二 係
消 防 団 長
消　防　団
本　　団
東　方　面
（副団長）
第 1 分 団
（逗　子）
第 3 分 団
（沼　間）
第 9 分 団
（桜山上）
北　方　面
（副団長）
第 4 分 団
（池　子）
第 5 分 団
（山の根）
第 6 分 団
（久　木）
西　方　面
（副団長）
第 7 分 団
（小　坪）
第 8 分 団
（新　宿）
第 2 分 団
（桜山下）

消防本部・署機構と事務分掌

消防本部	消防長 消防次長	消防総務課長	庶務係	公印の保管に関すること。 文書の収受及び発送に関すること。 消防関係例規等の整備に関すること。 庁舎の維持管理に関すること。 職員及び団員の任免、賞罰その他人事に関すること。 消防予算に関すること。 公務災害補償に関すること。 職員の福利厚生に関すること。 職員の諸給与及び退職手当等に関すること。 消防関係表彰に関すること。 貸与品その他物品の出納及び管理に関すること。 消防専用無線設備の管理に関すること。 消防団に関すること。 消防本部及び課の庶務に関すること。
			警防救急係	消防組織制度及び事務改善の企画に関すること。 主要事業計画の策定及び進行管理に関すること。 他の市町との消防相互応援協定に関すること。 職員及び団員の教育及び研修に関すること。 会議に関すること。 消防・救急訓練指導に関すること。
		消防予防課長	予防係	火災予防に関すること。 特殊建物の立入検査及び消防用設備等に関すること。 建築確認の同意に関すること。 火災の原因及び損害の調査に関すること。 火災に関するり災証明に関すること。 課の庶務に関すること。
			指導係	危険物の規制及び保安に関すること。 指定可燃物等の規制及び保安に関すること。 災害情報管理及び消防広聴、広報に関すること。 消防統計事務に関すること。 その他災害予防指導に関すること。
消防署・分署	署長	副署長 （警備第一課長） 副署長 （警備第二課長） 小坪分署長 北分署長	警備第一係 警備第二係	災害の警備及び予防に関すること。 消防、救助及び救急に関すること。 消防通信に関すること。 消防訓練指導に関すること。 消防水利に関すること。 立入検査に関すること。 火災の原因及び損害の調査に関すること。 消防専用無線設備及び防災総合無線設備の運用に関すること。 その他警防に関すること。 本署又は分署の庶務に関すること。

管　　内　　情　　勢

（令和７年３月31日現在）

分類 / 地域別	面　積 (㎢)	人　口			世帯数	１㎢　当たり	
		男　性	女　性	計		人　口	世　帯
逗　子	0.74	3,084	3,617	6,701	3,387	9,055	4,577
桜　山	3.99	5,158	5,734	10,892	5,218	2,730	1,308
沼　間	3.51	4,183	4,696	8,879	4,386	2,530	1,250
池　子	3.80	2,739	3,119	5,858	2,831	1,542	745
山の根	0.51	1,335	1,506	2,841	1,398	5,571	2,741
久　木	2.41	4,730	5,311	10,041	4,515	4,166	1,873
小　坪	1.59	3,800	4,290	8,090	4,052	5,088	2,548
新　宿	0.73	2,019	2,337	4,356	2,084	5,967	2,855
合　計	17.28	27,048	30,610	57,658	27,871	3,337	1,613

（注）面積には、米軍池子住宅地区及び海軍補助施設約2.52平方キロメートルを含む。
　　人口、世帯数は住民基本台帳による。

逗子市勢に対する常備消防力との比

（令和７年３月31日現在）

市勢			消防吏員１名に対する			消防車１台に対する		
面　積 (㎢)	人　口	世　帯	面　積 (㎢)	人　口	世　帯	面　積 (㎢)	人　口	世　帯
17.28	57,658	27,871	0.18	607	293	3.46	11,532	5,574

（注）面積には、米軍池子住宅地区及び海軍補助施設約2.52平方キロメートルを含む。

○　予　　算

令和７年度の消防予算額は13億2,245万6千円で、逗子市の一般会計予算に対する割合は、5.4％となっています。

主な事業としては、消防力の充実強化及び各種災害に対応するため、防災拠点である消防施設(第３分団詰所)、防災資機材搬送車及び第３分団車両の整備を行います。

また、複雑多様化する災害等に対応するため、神奈川県消防学校初任教育や救急救命士就業前病院実習等、各種の教育を行う費用として、職員研修事業費を増額し、専門的な知識や技術の修得を図ります。

さらに、神奈川県及び県内各消防（局）本部で整備している神奈川県消防救急デジタル無線の更新に係る整備（工事）費用として、消防指令システム整備事業費を増額計上しています。

市予算に占める消防費の割合

年度／区分	令和７年度	令和６年度	令和５年度
市予算額（千円）	24,694,000	22,986,000	22,046,000
消防予算額（千円）	1,322,456	1,110,371	1,454,328
比率（％）	5.4	4.8	6.6

（注）予算額は、当初予算による。

消防費と住民基本台帳人口との比

（令和７年度当初）

予算額（千円）			１世帯当たり(円)	人口１人当たり(円)	消防予算内比率(%)
市予算額		24,694,000	886,011	428,284	
消防予算額		1,322,456	47,449	22,936	
内訳	常備消防費	935,309	33,559	16,222	70.7
	非常備消防費	26,949	967	467	2.0
	消防施設費	269,670	9,676	4,677	20.4
	災害対策費	90,528	3,248	1,570	6.8

消防吏員定員及び配置状況

（令和７年４月１日現在）

区分＼階級別			消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
定員			1	102						103
消防本部	消防長		1							1
	消防次長			1						1
	消防総務課	庶務係		1	2	1	3	1		17
		警防救急係			1	1	1	2	4	
	消防予防課	予防係		1	1		1			5
		指導係			1		1			
	小計		1	3	5	2	6	3	4	24
	消防署長			(1)						(1)
消防署・分署	消防副署長			2						2
	警備第一課	警備第一係		(1)	2	2	5	4	2	15 (1)
	警備第二課	警備第二係		(1)	2	2	6	4	2	16 (1)
	小坪分署	警備第一係		1	2	2	2	2	2	19
		警備第二係			1	1	3	2	1	
	北分署	警備第一係			2	1	4	1	1	19
		警備第二係			1	2	3	1	3	
	小計			3 (3)	10	10	23	14	11	71 (3)
実員			1	6 (3)	15	12	29	17	15	95 (3)

（注）（ ）内は兼務を示す。

市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

消防吏員階級別年齢状況

（令和７年４月１日現在）

年齢別＼階級別	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
平均	54.0	53.7	51.7	45.7	35.4	26.6	22.5	37.0
２０歳未満							2	2
２０歳～２４歳						4	12	16
２５歳～２９歳					1	12	1	14
３０歳～３４歳				1	11			12
３５歳～３９歳					13	1		14
４０歳～４４歳			2	5	4			11
４５歳～４９歳			4	2				6
５０歳～５４歳	1	4	4	3				12
５５歳～５９歳		2	3	1				6
６０歳以上			2					2
合計	1	6	15	12	29	17	15	95

（注）市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

消 防 吏 員 勤 続 年 数 状 況

（令和７年４月１日現在）

階級別 / 年数別	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
平均	31.0	33.5	32.1	24.9	13.9	5.4	0.6	20.2
1年未満							9	9
1年～4年						6	6	12
5年～9年					5	10		15
10年～14年					7	1		8
15年～19年				4	14			18
20年～24年			1	3	3			7
25年～29年			5	1				6
30年～34年	1	5	3	4				13
35年～39年		1	6					7
40年以上								
合計	1	6	15	12	29	17	15	95

（注）市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

表　　彰

（令和６年度）

種別	個人・団体別 受賞者 / 表彰者	部隊表彰		消防吏員				消防団員			民間協力者	計
		消防署	消防団	消防司令補以上	消防士長	消防副士長	消防士	副分団長以上	部長班長	団員		
永年勤続功労者	消防庁長官			1				1				2
	県知事			1	2			2	2			7
	市長			1	2			3	6	7		19
	消防長会々長			1								1
	消防協会々長		1					4	5	5		15
優良	消防長				3					1		4
感謝状	県知事											
	消防長										11	11
合計			1	4	7			10	13	13	11	59

（注）市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

消 防 吏 員 居 住 状 況

（令和７年４月１日現在）

階級別 / 居住地別		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
市内	逗子						1		1
	桜山		1	3		1		2	7
	沼間			1			1		2
	池子	1		1		1			3
	山の根					1			1
	久木					1		1	2
	小坪						1		1
	新宿								
	小計	1	1	5		4	3	3	17
市外	横浜市		1	5	3	4	6	4	23
	横須賀市		2	2	5	5	4	2	20
	鎌倉市			1	1	6	2		10
	三浦市		1			1			2
	葉山町			1		2			3
	その他		1	1	3	7	2	6	20
	小計		5	10	12	25	14	12	78
合計		1	6	15	12	29	17	15	95

（注）市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

特 殊 技 能 ・ 資 格 取 得 状 況

（令和７年４月１日現在）

種別 / 階級別		消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
救急救命士			3	6	3	14	2	3	31
予防技術者	防火査察		3	1		3			7
	消防用設備等		3			3			6
	危険物		2	1		2			5
自動車運転免許	大型	1	5	13	11	19	2	1	52
	中型		1	2	1	6			10
	準中型					4	5		9
	普通						9	15	24
陸上特殊無線技士	第２級	1	2	9	9	28	13	5	67
	第３級		4	6	3	1	1		15
アマチュア無線技士				1					1
危険物取扱者	甲種								
	乙種	1	6	11	12	28	16	3	77
	丙種			4					4
小型船舶操縦者免許		1	3	7	6	6	2		25
玉掛技能		1	6	13	10	13	2		45
小型移動式クレーン		1	3	9	9	12	2		36
衛生管理者			1		1				2
特定化学物質等作業主任者			1	1					2
潜水士			1	2	1		1		5
ガス溶接作業者			2	6	4	2			14

（注）市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

消　防　吏　員　任　免　状　況

（令和６年度）

区　　分	採　　用	退　　職	昇　　任	昇　　格	計
人　　員	9	4	8	11	32

（注）市長部局出向職員・短時間再任用職員除く。

消　防　吏　員　研　修　状　況

（令和６年度）

区分＼階級別	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
神奈川県消防学校			1	4	7	1	5	18
MC・救急関係			12	12	35	3	3	65
署内講習		3	25	28	80	68	194	398
その他	1	2	10	5	19	5	3	45
合計	1	5	48	49	141	77	205	526

（注）延べ人員

市長部局出向職員・短時間再任用職員を除く。

消 防 相 互 応 援 協 定

消防組織法第39条の規定に基づき、火災その他の災害が発生したとき、協定市町相互間の消防力を活用して災害による被害を最小限度に防止し安寧秩序を保持するため、神奈川県下17市６町で協定を締結している。

１　通常応援出場区域

逗　　子　　市	横　　浜　　市
池 子	六浦町、六浦南五丁目、 東朝比奈一～三丁目

逗　　子　　市	横　　須　　賀　　市
沼 間	船越町、田浦町２～６丁目、港が丘

逗　　子　　市	鎌　　倉　　市
久木、新宿、小坪、山の根	材木座四・六丁目、大町五・七丁目、 浄明寺、十二所(県道金沢鎌倉線以南)

逗　　子　　市	葉　　山　　町
桜山、逗子	堀内、長柄

２　自動車専用道路受持区域

逗　　子　　市	横　　浜　　市
横浜・横須賀道路のうち、逗子インターチェンジから朝比奈インターチェンジまでの区間の上り線	横浜・横須賀道路のうち、朝比奈インターチェンジから逗子インターチェンジまでの区間の下り線

逗　　子　　市	横　　須　　賀　　市
横浜・横須賀道路のうち、逗子インターチェンジから横須賀インターチェンジまでの区間の下り線	横浜・横須賀道路のうち、横須賀インターチェンジから逗子インターチェンジまでの区間の上り線